



2018年 新年ご挨拶

スーパー連携大学院コンソーシアム web ニュース
2018年 1月 19日

●2018年 新年ご挨拶

スーパー連携大学院コンソーシアム
会長 梶谷 誠



あけましておめでとうございます。

スーパー連携大学院を5年間支援してきた文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」が昨年3月で終了しました。その後、5年間の成果の報告書を提出し、評価を受けておりましたが、その評価結果の内示が昨年暮れにありました。まだ正式な発表はされていないので、詳細は報告できませんが、かなり良い評価をいただいております。各大学及び連携企業等のご尽力、ご支援の賜であると感謝しております。

また、2017年度にスーパー連携大学院プログラムを修了した博士が就職した会社で博士課程時の共同研究の成果を基に起業する予定と聞いております。まさに、スーパー連携大学院が目指すベンチャー精神旺盛な人材を輩出することができたことはうれしい限りです。

なお、文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」の支援が終了したことに伴い、これまでの活動の見直しを行い、教育プログラムの改善に取りかかると同時に、産学官連携のオープンイノベーションの場を構築して、共同研究プロジェクトを積極的に発掘する仕組みづくりに取りかかりました。このオープンイノベーションの場はビジネススペースでの運用を目指し、コンソーシアムの財政的な自律にも結びつけたいと考えております。

これは一朝一夕には実現できませんので、当面の財政を補うために「[スーパー連携大学院教育プログラム寄附金](#)」制度をつくり、[関係企業](#)に寄附のお願いをしてきました。おかげさまで、初年度の目標の1千万円を達成することができました。ご寄附をいただいた企業及び個人の方に深甚の謝意を捧げます。今後もこの制度は続けてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、2007年に私たちが提唱した産学官で協働してイノベーション人材を育てるというスーパー連携大学院構想の理念は、最近さまざま場で唱えられるようになり、政府の施策にも取り入れられています。特に、産学共同研究の更なる推進を謳う中で、産業界からの資金の大幅の増額とともに、産学共同研究への大学院生の参画と学生への給与の支給まで推奨していることは、まさにスーパー連携大学院が主張してきたことにほかなりません。

この火を消さないよう、さらに一層邁進してまいりますので、今後ともご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。